語り部の経営者たち

本紙・杉本勝之

HTC（我が家）臼井宏太郎社長 53歳 ④

29歳、残業、徹夜、栄養ドリンク漬けの日々

2002年、29歳だった臼井は、東京の経営コンサルティング会社に転職する。経営を勉強するためだ。そのコンサル会社は「企業家輩出機関」をうたい、40歳までの独立を推奨していた。

大学を1年で中退し、福岡市のレストラン、居酒屋のフリーターから、サービス業を極めようと外資系ホテルへ。東京の通信会社会長からヘッドハンティングされ、プロバイダー会社の立ち上げを任されたが、失敗。挫折も経験したおかげで、「将来は飲食の経営をしたい」と本気で思えたからだった。

コンサルタントとして飲食の多店舗マネジメントの人材育成や組織づくりに携わったが、想像以上に過酷な環境だった。

「1日8時間仕事するのは当たり前で、もう8時間は勉強しなさい、と。イーロン・マスクさんは1日16時間労働と言われていますが、当然のようにそれが求められる環境で、当時100人ほどの社員がいたと思いますが、将来は独立してやるというギラギラした野心家が集まっていましたね」

新卒は東大や早慶など名門大学出身、中途入社も大企業で実績を積んだ優秀な人材ばかり。

「新人研修で自己紹介するんですが、将来の夢は総理大臣になることと真顔で語る人もいて、意識が高いというか、『何だこの世界は』と面食らいました（笑）」

最初は周囲のレベルの高さやスピードについていけず、何度も辞めようと思ったという。

「時間でカバーするしかなかったので、早朝4～5時ぐらいまで働いて、3時間ほど仮眠を取ってから会社のトイレでヒゲを剃って、そのまま仕事。週に3日ほどは会社で徹夜していました」

出張先から終電で帰宅ではなく、仕事が終わらないので帰社。他の社員も残業、残業で、深夜になってもオフィスの電気が消えない「不夜城」と呼ばれたそうだ。

「会社に寝袋を置いている社員もいたり。平均睡眠時間が3時間なので、会議とかで上司の目の前でもウトウトしちゃうんですよ。だから眠気覚ましの栄養ドリンクを1日に3本ぐらい飲んだりして（笑）」

当時、会社のビル1階にあったコンビニでは、栄養ドリンクの売り上げが日本一になったという逸話もあるらしい。

「毎月何十人と入社してきましたが、1年以内に半数以上が辞めていきました。私はカフェインばかり取っていたので、コンサル会社にいた数年間で寿命が何年か縮んだんじゃないかと思っています（笑）」

「24時間戦えますか」――CMのキャッチコピーそのままの環境だった。

（来週月曜につづく）

原油の需給アンバランスがもたらす「世界不況」への突入

経済コラムの核心

【中西文行】

IMFも警告

国際通貨基金（IMF）は4月14日、2026年の世界経済が3・1％成長になるとの予測を公表した。前回（1月時点）から0・2ポイントの下方修正である。

27年も3・2％と低成長の公算である。IMFは原油高が続けば、成長率は世界不況の目安とされる2・0％まで鈍るとも警告した。

トランプ米大統領は4月16日、ネバダ州ラスベガスで行われたイベントで支持者らに向かい、「私の最初の任期中、わが国史上最高の経済を築き上げた。そして今、さらに成長させている。イランというラブリーな国、ラブリーな場所への〝ちょっとした気晴らし〟にもかかわらずだ」と述べた。原油高は「ちょっとした気晴らし」により惹起した。

株式投資において、株価に先高観があれば、手持ち保有株を売却せず、高値での利益確定売りが基本。また資本主義経済では、原材料価格の高騰により、小売価格に先高観があれば、流通業者は売り惜しみ、在庫を積み上げ、将来の高値で売却、より大きな売却益を得るのは、当たり前の経済原則である。

4月5日、サウジアラビアはアジアの顧客向けに出荷する5月積みの主要原油グレードについて、中東産原油の指標価格に対するプレミアム（上乗せ価格）を過去最高水準に引き上げた。指標価格に対するプレミアムとしては過去最も高いという。

緊迫のホルムズ海峡（ロイター）

4月17日、26年サッカーW杯北中米大会に関連し、試合がある日のニュージャージー州のメットライフ・スタジアム～ニューヨーク・マンハッタン中心部のペンシルベニア駅間の往復運賃を通常の約12倍にあたる150㌦に引き上げると発表した。通常の運賃は12・9㌦。メットライフ・スタジアムでは決勝戦を含む8試合が行われ、各試合約4万枚を販売する計画という。需要と供給のアンバランスである。

1973年に起きた第1次オイルショックで当時の政府は「石油節約運動」として、日曜日のドライブ自粛、高速道路での低速運転、深夜のテレビ放送自粛などを呼び掛けた。節電・節約の要請で、夜間の外出抑制などを呼びかければ、個人消費が萎縮、コロナ禍のように景気が減速するのは確実だろう。

気象庁の4～8月の全国天気予報では、暖かい空気に覆われやすいため、気温は全国的に高いという。電気代は、政府の補助金終了に伴い4月使用分から大幅に値上がりし、高止まりする見通しである。標準的な家庭では月数百円から1000円以上の負担増となるようで、健康維持の高齢者はエアコンの負担増となろう。

ホルムズ海峡が正常化しても原油高止まりにより、「ちょっとした気晴らし」も無理な年金生活者などは、初夏の隘路を抜け出せるだろうか。

いっぱい幸せになるマネー術

GWは「安近短＋幸」の美術館巡りでハッピー

生活経済ジャーナリスト

柏木理佳

今年のゴールデンウイーク（GW）は、安近短＋幸福度が高まるところに行きましょう。ガソリンを使わず安くて近い場所を選ぶのはもう当たり前、物価高で我慢も増えています。なので、今年は、幸福度が上がる方法・場所を選んでみましょう。

例えば、美術館などがオススメです。5万人以上を調査した結果、美術館に行く人は、学歴や貧富の差に関係なく、人生に対する満足度が高い傾向があるとする論文がイギリスの専門誌で発表されています。美術鑑賞は、日常とは異なる空間で新しい視点や創造性を養い、ストレス軽減、感情が安定し不安やうつの状態を遠ざけるようです。

でも、いくつもの美術館を回ると、入場料もばかになりません。そこでオススメなのが「東京・ミュージアムぐるっとパス2026」（2500円）です。100以上の美術館、博物館、さらに動物園の入場券が無料・割引になります。例えば、上野動物園、葛西臨海水族園、すみだ北斎美術館などに行けますので、長いゴールデンウイーク中、お孫さんの面倒を見なければならない場合は、動物園と水族館、さらに美術館など割安で行くことができてお得です。

1カ所の入場券だけでも1000円以上するところが多いので、2～3カ所見るだけで元が取れます。その上、最初に利用した日から有効期間は2カ月あるので、6月梅雨の時季や、夏休みにも使えそうです。

特に、幼児期に一流の絵画などを鑑賞すると、脳の発達に良く感性が磨かれるそうです。孫を、公園に連れていくのも体力が持ちません。買い物に連れていっても買って買ってとせがまれ、財布が持ちません。美術館なら、お得で、ハッピーです。

どうしても旅行に行きたい人はどうすれば幸福感が高まるのでしょう。

今年の旅行の特徴は、滞在日数が短いことです。そうなるとタイパ（タイムパフォーマンス）が大事です。旅の移動中に、重たいスーツケースがあるために、山登りやお寺巡りは諦めたという人もいるでしょう。

そこで便利なのがマルチエキューブのホテル配送サービスです。1500円から2700円しますが、当日の朝9時30分までに駅のコインロッカーに荷物を預け、荷物の大きさ、ロッカーの場所などを入力して予約すると、宿泊先のホテルに荷物を届けてくれます。東京メトロッカープラスでも、午後2時までにロッカーに預けると、東京の500ほどのホテルに、原則夜7時までに届けてくれます。

JALもANAの国際線でも、前日くらいまでに自宅に荷物を引き取りに来てもらうと旅行先の空港に荷物が到着している「手ぶら宅配サービス」（宅配料＋約330円）があります。荷物が重いと疲れて喧嘩の原因になります。幸福度が高まる旅行をしましょう。